

1. 活動の概要

5月28日（月）、大田市立久屋小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

はじめに、大田市には遺跡が500余りあることを紹介し、校区にある行恒古墳のほか、朝山大田道路や静間仁摩道路の建設の際に調査された遺跡や古墳を紹介しました。次に、体験活動『和同開珎づくり』に先立ち、和同開珎の作られた奈良時代や平安時代の遺跡として、大田市市井深田（いちいふけだ）遺跡や神谷（かんだに）遺跡を紹介し、遺跡から出土した土器の観察してほしい部分を示しました。土器に初めて触れたとのことで、はじめはおそるおそる、しだいに土器の質感を確かめるように触れていました。

体験活動の『和同開珎づくり』では、金属が溶ける瞬間やシリコン鑄型を開ける瞬間に熱い視線を感じることができました。鑄型のアわせ方が緩く「液漏れ」をしてしまいましたが、再度溶かして和同開珎を作ることができました。その後、苦勞しながら枝錢を切り離し、時間まで磨いていました。

大田市内の遺跡と和同開珎づくりを学ぶことができました。

2. 活動の様子

大田市内から出土した土器に触れてみよう。



和同開珎づくり



金属が溶ける様子を興味深く見えています。



うまく鑄上がりました！

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから

- ・土器にさわったことや和同開珎を作ったりできたことが心に残りました。
- ・和同開珎を切ってやすりでみがけてよかった。
- ・和同開珎の本物を見たい。
- ・遺跡や古墳を見たい。

2) 担任の先生から

- ・土器に実際に触ることで、どんなものかイメージを持つことができました。

3) 埋文センターから

初めて土器にさわってみるとのことで、熱心に土器を観察し、その感触をじっくり感じている姿が印象的でした。大田市内の遺跡についても、興味深そうに聞いていました。和同開珎づくりでも、一生懸命「バリ」をサンドペーパーでとっていました。歴史についての興味や認識が深まったように感じました。